

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その32）

～「アジアカップ 山本麻衣選手」～

2021年10月吉日

U12部会広島地区SV

大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

9月30日に緊急事態措置が終了し、各チームの体育館にも、選手の笑顔と元気な声に戻ってきたことと思います。ただ、新型コロナウイルス感染が収束したわけではありません。拡大防止のため、今後も「新しい生活様式」（マスクの着用、咳エチケットや手洗い、3密を避けるなどの対策）をより一層徹底しなければなりません。

まずは私事ですが、飼っていたハムスターのチョコちゃんが先日亡くなりました。我が家にきて3年と2か月。毎日、私の疲れを癒してくれていたチョコちゃん。元気な時は体重が45gありましたが、亡くなる前は25gに減少していました。最後は、歩くこともできず、口元に近づけた大好きだったヒマワリの種をかじりながら、眠るようにその一生を閉じました。

亡くなる前の数日間は、餌入れに向かって足を引きずりながら一生懸命歩き、餌をくわえてまた隠れ家に帰っていく姿を見ながら、ふと自分の将来を考えさせられました。いつかは自分も行く道。残された人生、これまで以上、一日一日を大切に生きていかなければと。

そして一日一日を大切に考えた時、ミニバスの6年生のことが頭に浮かびました。この4月、「これからは自分たちの番だ！！」とスタートしたにもかかわらず、コロナ禍とはいえ、練習や試合ができる期間と自粛期間の繰り返し。なかなか落ち着いてバスケットボールができないまま、気が付くともう10月です。今のチームで活動できるのも、残り5か月あまりです。それだけに残された小学校生活、まさに一日一日を大切に、しっかりとバスケットボールを楽しんでほしいと思います。

さて、今回のテーマは「山本麻衣選手」を取り上げてみました。

No. 30の『東京オリンピックについてのコラム』で、山本選手について、「24年パリ五輪では5人制バスケットボールのメンバーとして出場し、そのスピードを再度世界にアピールしてほしいですね」と書きました。

それが、今回のアジアカップで日本代表に選ばれ、しかも大会で大活躍し、夢が現実近づいた気がします。

山本選手は、小学校4年生まで、広島市のチームで活動していました。小学校5年生の時に、愛知県に転校しましたが、以前紹介した通り、全国ミニバス、全校中学、インターハイ、Wリーグと、すべての年代で日本一を経験しています。

転校した愛知県では、全国大会の常連チームに在籍したにもかかわらず、5年生でレギュラーでした。そしてその後の活躍や実力は見ての通りです。

でも、今回お伝えしたいのは、「山本選手は小学生のころからずば抜けて上手だった」ではなく、「山本選手の小学校の頃の練習での心構え」なのです。

このことが、広島地区の選手やコーチの皆様の参考になればと思っています。

① 人の話をよく聞き、聞いたことを発信する！！

山本選手は、2つ上のお姉さんと一緒にミニバスを始めました。当然、チームのコーチとしては、6年生のチームへの指導が中心になりますから、山本選手へは、普通の低学年にするように、ごくごく基本的なことを指導されたそうです。

山本選手が4年生になったある時、4年生同士のゲームで、6年生に教えていたプレイをやり始めました。山本選手はもちろんのこと、周りの選手も動きを合わせてプレイしていたそうです。コーチが6年生に指導したことをしっかり聞いていて、周りの同級生と一緒に考え、自分たちもできるように作戦を立ててゲームに臨んでいたのだそうです。

② どうすればよいか考え、工夫し、何度でもあきらめず挑戦する！！

山本選手は小学生の時から小柄でした。今回のアジアカップでも、身長の高い選手がたくさんいる中で、選手同士が並ぶと、ずいぶん身長差がありましたね。でもテレビ中継のカメラマンが、やけに山本選手を映すことが多かったと私は感じました。個人的にはたとえ背が低くても、スピードや技術があれば十分通用するというのを、カメラマンは伝えたかったのではないかと思います。解説の原田裕花さんも絶賛でした。

話は戻りますが、小柄だった山本選手は、どうすれば背が高い5年生や6年生と対等に戦えるか、常に考え工夫していたそうです。お姉さんをはじめ女子の先輩や男子を相手に、失敗を恐れず何度も挑戦していたそうです。その積み重ねが、背が高い選手が前にいても、決して臆することなく、自分のプレイができる技術の習得に繋がったのでしょう。

自分で考え、工夫し、努力し、そしてあきらめず実践する。まさにスポーツで、またミニバスケットボールで一番大切なことではないでしょうか。

③ 明るく、誰にでも愛される性格！！

山本選手は、友達が失敗したときは、必ず励ましの言葉をかけていたそうです。では、自分が失敗したときは？ それは、舌をペロッとだし、ニコリと笑ってすぐ次のプレイに切り替えていたそうです。友達のミスは責めずしっかり励ます。自分がミスをした時は笑いながらすぐに気持ちを切り替える。これなら、周りのみんなから信頼され、愛されるはずですね。

今回のアジアカップで、ミスをしてもしすぐそれを取り戻そうとするスタイルは、見ていて気持ち良かったですね。

※ 山本選手には、これからもミニバスケットボールを愛する児童のあこがれ、目標であり続けてほしいと思います。そして益々技術に磨きをかけ、ぜひとも、パリオリンピック出場を果たしてほしいと願っています。